

えん + じん

発行：
多賀城市市民活動サポートセンター
(たがさぼ)

第9号 【毎月1日発行】

発行日：平成24年6月1日

被災地で生活している方、復興支援活動をしている方を応援する情報誌です。



4月22日(日)、高橋公園仮設住宅にて住民の方々による表札づくりが行われました。この表札づくりは、住民の「自分たちの表札を自分たちで作りたい」という思いから仮設住宅自治班により企画されました。参加者は約20名、全戸数の半分にあたります。参加者がより楽しく、工夫して表札づくりを行えるよう、アートに関するワークショップなどを開催している塩釜の団体「ビルドフルーガス」を講師として招きました。支援を待つだけでなく、やりたいこと・必要なことは自分たちで作りに上げていく。参加者の笑顔とともに前向きな気持ちが伝わってくる表札づくりでした。



写真上：できあがった表札を持って記念撮影／写真下：表札づくりの様子

もくじ

- P 1…高橋公園仮設住宅表札づくり
- P 2…特集 ママたちの声が子どもを守る
- P 3…多賀城お役立ち情報コーナー
- P 4…NPO相談窓口／たがさぼブックレビュー

特集 ママたちの声子どもを守る

多賀城に住むママたちを中心に立ち上がった「放射線被曝から子どもを守る会・多賀城」。どういった思いから団体が生まれたのか、ママたちのつながりがどのように共感を集めてきたのかを紹介します。

1人より2人、2人より3人・・・

福島第一原発の事故発生以来、放射線に関する問題は、日本に大きな影響を与えました。それは子どもたちも例外ではありません。福島のみならず、多賀城にも、放射線が子どもに与える影響に不安を感じるママたちがいます。事故の影響を調べれば調べるほど、対策が必要であることを強く感じていくようになりました。原発事故以来続く子どもの体調不良を心配し、検査を受けたところ、尿からセシウムが検出され、内部被曝していたことがわかりました。検査の結果にショックを受けたママは、知り合いのママたちに相談しました。相談する中で、不安を覚えているのは自分だけではないことがわかりました。これがきっかけとなり、同様の不安を抱えていたママ同士が集まって「放射線被曝から子どもを守る会・多賀城」という団体を立ち上げました。この会では、「このまま放っておいたら子どもたちの被曝量がどんどん増えてしまう。多賀城の子どもたちを守りたい。」という思いから、同じように不安を抱える人たちがつながり、情報交換や勉強会を行っています。

ママがつながる多賀茶会

団体を立ち上げた当初は、メンバーをどのようにして集め、活動を進めていくのかも分からず、試行錯誤を繰り返しました。もっとたくさんの人に活動を知ってもらおうと、ブログを立ち上げ、ポスターを作成しました。そして3月、同じ不安を持つママ同士がつながるきっかけを作り、一緒に活動していくメンバーを増やすため、「多賀茶会」を開催しました。「多賀茶会」では、団体の活動内容の紹介や参加者同士の交流・情報交換が行われました。当日は多賀城市内をはじめ県内外から数多くのママたちが参加しました。参加者は「今できている放射線対策」「これからやってみたい対策」「周囲との温度差」「産地が西にある食材を使った店」「学校行事について」といったテーマについて、ディスカッションや情報交換を行いました。その中で、「人によって意識の違いがあるため、自分の周りの人、特に家族からの理解が得られない。」「自分の地域でどこに働きかけていけばいいのかわからない。」など、参加者同士が現在抱えている不安や問題点を話

し合ったり、「このお店は産地を表示している」「この食材は免疫力を上げることができる」といった情報交換を行うことができ、とても有意義なものになりました。「多賀茶会」を開いた効果もあり、現在では多賀城市を中心として会員数は45名になりました。また、同じ悩みをもつママ同士がつながるだけでなく、「子どもの尿検査と健康調査」「給食食材の事前検査」「校庭などの土壌調査と除染の実施」といった要望を、多賀城市議会への請願書の提出や多賀城市長への直接陳情を通して常に声をあげ続けています。

つながりを力に変える

「放射線被曝から子どもを守る会・多賀城」は、子どもたちのために力を合わせていく、という思いを大切にして活動しています。決して不安をあおるのではなく、「放射線の影響がどの程度なのか分からない」「正しい情報を知りたい」と思っているママたちがつながり、声をあげていくための会です。1人で悩みを抱え込むだけでは、解決のきっかけは見つかりません。しかし、声をあげていくことによって、一緒に考えてくれる仲間が見つかります。初めは小さな声でも、続けていくことによって共感してくれる人も増えていきます。こうしてできていくつながりが、少しずつ社会を変えていく力となっていきます。



ポスターやカードを用いてつながりを広げています

岡山博先生講演会

放射線の影響とこれからについて考えよう

日 時：平成24年7月8日(日) 午後2時～午後4時
会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 3階 大会議室
講 師：岡山博教授(仙台赤十字病院呼吸器科医師、東北大学臨床教授)
費 用：500円(一席)
定 員：先着80名
申 込：090-4477-8388(高橋)
E-mail：larme0328@auone.jp

放射線被曝から子どもを守る会・多賀城

電話：090-4477-8388

FAX：022-368-7792

E-mail：larme0328@auone.jp

HP：http://ameblo.jp/tagajyomiraie/

多賀城お役立ち情報コーナー

NPOによるイベントや地域の取り組みを紹介します。困りごとの解決や復興に関わるきっかけとなる情報です。

多賀城・太宰府 市民の絆 LOVE tagajo & CLOVERS MUSIC

LOVE AIR 多賀城市震災復興コンサート
FUKUOKA&MIYAGI MUSIC COLLABORATION
日 時：6月9日(土)
午後3時30分(開場：午後3時)
場 所：多賀城市文化センター 小ホール
入場料：1,000円(全席自由)
チケットの販売：
多賀城市文化センター(中央2-27-1)
アトリエポラン(留ヶ谷2-14-13)

震災以降、多賀城を元気にするイベントを開催してきた「LOVE tagajo」と、多賀城の復興を応援したい姉妹都市・太宰府の市民で結成された「CLOVERS MUSIC」が、多賀城へステキなイベントをお届けします。その名も「LOVE AIR」。太宰府のプロサックスプレイヤー・安武玄晃さんたちによるコンサートです。

安武さんとは昨年5月、「LOVE tagajo」のメンバーのもとへ送られたメールをきっかけに、6月には避難所であった文化センターでのサックスライブ、9月には多賀城のお店などでコンサートを開催しました。「LOVE tagajo」は、多賀城と安武さんをつなぐコーディネーターとして活躍しました。今回の「LOVE AIR」は、震災後にできたつながりが、1年経過した今でも途切れず、実現したのです。

復興を願う多賀城と太宰府の市民の想いを奏でた音色が、多賀城のまちを優しく包み込みます。

連絡先

アトリエぶるぷる(LOVE tagajoさとう)
電話：090-7563-6261
アトリエポラン(LOVE tagajoしょうじ)
電話：090-3647-7028

盛り上げられ多賀城 多賀城月の市

こども元気祭り

日 時：6月17日(日)
午前10時～午後3時
※雨天時6月24日(日)に延期。
場 所：JR仙石線多賀城駅前広場

昨年の7月から12月までの間、計4回、多賀城ににぎわいをもたらそうと開催されてきた「多賀城月の市」。今年度第1回目は、「こども元気祭り」と題して、お子さんを対象にヒーローショー、高所作業車の試乗、夢ケーキ作りなど魅力的な催しを予定しています。

企画をしたのはNPOや企業、行政で構成されている多賀城月の市実行委員会。これまでにB級グルメ大会やフードドライブ(食料品を集めて食料困窮者に無償提供する活動)、毎年恒例「悠久の詩都の灯」とのコラボレーションなどさまざまアイデアで多くの人を集めました。今回の「こども元気祭り」もどなたでも気軽に参加できるイベントです。ぜひご家族でお越しください。



たくさんの出店でにぎわう月の市

連絡先

多賀城月の市実行委員会
電話：022-368-1141(内線471)
HP：<http://aneblo.jp/tsukinoichi/>
Twitter：@tsukinoichi

Twitterでつながった一 探してみよう編

今話題のTwitter(ツイッター)。インターネット上に自分の持っている情報や思っていることを短文(140字以内)で気軽に発信することができるサービスです。また、他の人のつぶやきから情報収集することもできます。他の人のつぶやきに対して返信することもでき、それによって他のTwitter利用者との交流が生まれるのも大きな特徴です。震災直後、十分に情報を得たり、発信したりすることが難しい中、すばやく情報伝達が行えるTwitterは、安否確認やお店の開店状況、炊き出し等の情報交換に重宝されました。

Twitterページ内の検索スペースにキーワードを入れることによって、キーワードに関する情報を発信しているつぶやきを集めることができます。例えば「多賀城」と検索すると多賀城のイベント、お店、天気、オススメスポットといったさまざまなつぶやきが表示されます。この機能によって、興味のあるテーマの情報収集ができるだけでなく、そのテーマに関わる人や興味を持っている人を見つけることもできます。

まずは、興味のある情報を探してみましょう。興味のあるつぶやきを見つけることもつながりをつくる第一歩となります。

次号は、Twitterによって人とつながる方法を紹介します。



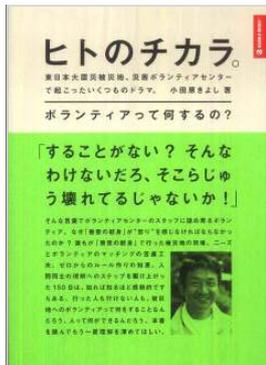
NPO相談窓口

被災者の困りごとや悩みごとに対応する相談窓口を紹介します。

<p>●よりそいホットライン● 仕事、生活、心、家庭、お金、病気など、さまざまな悩みや不安ごとの相談に応じます。どんな悩みでも一度電話で相談してみてください。一緒に解決しませんか？</p> <p>対象：震災や生活などさまざまなことで悩みを抱える方 団体：一般社団法人社会的包摂サポートセンター 電話：0120-279-338(通話料無料) 時間：24時間 H P : http://279338.jp/</p>	<p>●チャイルドライン● 学校のこと、家族のこと、いじめのこと等悩みや不安を抱える子どもの声を受け止めます。どんな話でも安心して相談ください。</p> <p>対象：18歳までの子ども 団体：NPO法人チャイルドライン支援センター 電話：0120-99-7777(通話料無料) 時間：午後4時～午後9時(月～土曜) H P : http://www.childline.or.jp/</p>
<p>●被災者専用人権ホットライン● 被災地から来たということで、いじめや差別を受けた、性的嫌がらせを受けた、避難所などでトラブルに巻き込まれた等、どこに相談してよいのかわからないという方はぜひご連絡ください。</p> <p>対象：人権に関してお悩みの被災者の方 団体：NPO法人World Open Heart(ワールドオープンハート) 電話：022-398-7129 時間：午後1時～午後5時(月～金曜) H P : http://worldopenheart.com/</p>	<p>●生活再建「無料電話相談」● 被災された方々の生活再建等に関する質問に、資産設計の専門家が電話でお答えします。</p> <p>対象：経済的な生活再建を望む被災者の方 団体：NPO法人日本FP(ファイナンシャル・プランナー)協会 電話：0120-874-002(通話料無料) 時間：午前10時～午後4時(月～土曜) H P : http://www.jafp.or.jp/</p>



たがさぽブックレビュー



〇たがさぽで閲覧・貸出ができます。

ヒトノチカラ。
 東日本大震災被災地、災害ボランティアセンターで起こったいくつものドラマ。
ボランティアって何するの？

著者：
 小田原きよし

発行：
 マーブルトロン

発行日：
 平成23年9月22日

震災後、全国から多くの方が被災地を訪れ、ボランティアという形で私たちを支援してくれました。本書は、著者が塩竈・七ヶ浜でボランティアを行った150日間の記録です。実際の活動の様子や作業中の心情が鮮明に描かれています。また、津波による浸水区域での作業に必要なものなど、活動を行うにあたり役立つ情報もまとめられています。

本書のポイントは、被災地の方に配慮した、筆者をはじめとするボランティアの心遣いです。「ボランティアはこなすべき作業中心に考えないで、被災された方の気持ちに寄り添わなければ」という一文があります。では、そのためにどう行動すればよいのでしょうか？本書には、そのヒントとなるボランティア活動の現場の知恵が詰まっています。どのような作業をするのか、どのような気持ちで何を準備して望めばいいのかなど、活動に参加する前の不安な気持ちを取り除いてくれる一冊です。

〇「えん+じん」バックナンバー〇
 たがさぽホームページにてバックナンバーをダウンロードすることができます。また、ご希望の方はたがさぽ窓口にてお渡します。
 ホームページ：<http://www.tagasapo.org/>

□発行：多賀城市市民活動サポートセンター
 〒985-0873 多賀城市中央二丁目25-3
 (多賀城市文化センター北隣、上水道部向かい)
 電話：022-368-7745 FAX：022-309-3706
 ホームページ：<http://www.tagasapo.org/>
 スタッフブログ：<http://blog.canpan.info/tagasapo/>
 Twitter アカウント：[@tagasapo](https://twitter.com/tagasapo)
 □編集：NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター